



✓ 第 2 回臨時大会・第 1 回支部総会開催！

ユニオン臨時大会

ユニオン第2回臨時大会が、去る10月9日18時30分から各支部からの代議員11人参加（定数19人）で開かれました。

議長の選出の後、新村執行委員長から「結成から4か月経った。順調に滑り出している。労連全体としても秋年末闘争方針案でユニオンの拡大をうたっている。先だっの第1回結成大会で確認した1年間の重点課題と方針は的確なものだ。秋年末闘争へ向けて全員で本格的に取り組もう」との挨拶で開会しました。

その後討議に移りました。

「組合活動が初めてなので引いてしまうことが

多い」「残業代が払われない『サービス残業』をなんとかしたい」「会社で事があったとき、1人では無力で、組合という組織の力を感じた。今度は、自分は何ができるかを考えたい」「自分は公然化しているが、職場内でなかまを増やすことについては、会社の目があ容易ではない」といった意見が出されました。

討議の後、出版労連中央委員の候補を拍手で確認し、同大会代議員と執行委員の補選を出席代議員の無記名投票で選出しました。

先号でお伝えした大久保委員長代理はこの投票によって正式にユニオンの執行委員（副委員長）となり委員長代理になりました。

当日選出された、各役員は以下の通りです。

出版労連中央委員	よしだゆうこ	（直B支部 / 執行委員）
〃 大会代議員	国貞昭治	（直B支部 / 副執行委員長）
〃 〃	早川晋策	（西部支部 / 副執行委員長）
〃 〃 補欠	兼古和昌	（直B支部 / 書記次長）
〃 〃 補欠	井之川陽平	（中部支部 / 書記次長）
ユニオン執行委員	大久保徳枝	（直B支部 / 副執行委員長）

今号の内容

✓ 第2回臨時大会・第1回支部総会開催！	1
✓ 今後の日程	2
✓ 執行委員紹介 国貞副委員長・中村書記次長	3
✓ 私の隠れ家 その2=寿司割烹江戸富士	3
✓ 今後の日程(つづき)	3
✓ 知るや銘酒泡盛 - マル田泡盛	4
✓ 組合用語ってわけわかんない - 春闘・秋年闘	4



中部 & 西部支部

出版情報関連ユニオンにとっては初めての支部総会が9月27日(金)出版労連会議室で開かれました。簡単にご報告します。

まず、各支部委員会の役員や地協委員・千代田と中央区の区労協委員、さらにユニオン大会代議員(中部=2人、西部=2人)をそれぞれ選出しました。定例の支部ミーティングは当面、中部・西部ともに第4金曜日に行ないます。

出版労連連帯ストライキ権、出版労連有罪法制反対・メディア規制反対の批准投票を行なうことを確認し、参加した組合員によってさっそく投票しました。この批准投票は、組合員の過半数の支持が必要となるため、投票日(10/4、10/16、10/25、11/1、11/6)をあらかじめ設け、その間に投票を行なえるように配慮しました。郵便による投票も行なう予定ですので、まだお済みでない方はご協力をお願いします。

記念すべき「第1回総会」とはいえ、参加者は中部5名・委任状1名(定足数:5名)、西部は5名の参加・委任状3名(定足数:8名)とかつての「ユニティ大会」を知る人にとってはやや少ない人数が寂しくも感じられましたが、そのぶんお互いの顔と名前は一致し意見も交流しやすいという利点があったことを付け加えておきます。もちろん、ベテラン(?)の準組合員の方々が多く出席されていたことはたいへん心強く、自己紹介や職場の状況、ユニオンに入った経過や“やる気”を交流しあいました。

今後の活動としては、「ファーストステップ」(3回連続の基礎学習:オリエンテーションや法律・賃金学習会)をはじめ「もしもの時に」(公開講座・出版労連主催)などのメニューが豊富に用意されています。どうぞ期待。

(中部支部・井之川陽平)

北部支部

10月4日、出版情報関連ユニオンが結成されて初めての北部支部総会が開催されました。

今度輝昭さんの開会挨拶があり、総会議長に山本有紀乃さんを選出し、議事が始まりました。

最初に、ユニオンの顧問弁護士になられた東京法律事務所の小部正治さん、平井哲史さんが挨拶してくださいました。

北部支部の今後1年間の支部体制として、支部長に山本有紀乃さん、副支部長に今度輝昭さん、事務局長に山本敦子、支部委員として俵谷晋三さんらが推薦、可決されました。同時に、第2回ユニオン臨時大会の代議員も推薦、可決、その他に地協委員、区労協の委員も決定されました。

理工学社、銀行研修社、西東社、くろしお出版が、単組としてコロナが年末一時金要求を北部支部として取り組むことを確認し、具体的な要求については今後の支部会議で確認の上、提出することとなりました。また出版労連連帯ストライキ権の批准などの投票をしました。

今後の支部ミーティングについては、従来通り毎月第1金曜日を定例日として開催することが承認され、定例会では小部正治顧問弁護士を囲んで『ポケット労働法2001』をテキストとしての学習も行われることが提案され、採択されました。

討議では、各組合員が職場紹介を兼ねての自己紹介をしました。北部支部は、争議の経験者や現在争議中のユニオンメンバーが多く、それぞれの経験や現在の状況などを知ることで、今後の取り組みへの参考になったように思えます。

議事は滞りなく進み、青山賢治ユニオン副委員長の「有事法案」「メディア規制」への取り組みへの報告と閉会挨拶を受け、終了しました。

当日は、北部支部28名のうち17名が出席し、9名分の委任を合計して26名となりました。

(北部支部・山本敦子)

今後の日程

10月16日(水)	執行委員会 18:30 ~ ユニオン事務所	17日(日)	安心して働きたい東京のつど い 13:30 ~ 全労連会館2Fホール
17日(木)	出版労連中央委員会	22日(金)	第4回中部・西部支部ミー ティング 18:30 ~ ユニオン事務所
18日(金)	明治書院争議支援夕デモ 18:00 ~ 西新宿柏木公園	27日(水)	ファーストステップ Step2 18:30 ~ ユニオン事務所
25日(金)	第3回中部・西部支部ミー ティング 18:30 ~ ユニオン事務所	12月4日(水)	執行委員会 18:30 ~
11月1日(金)	第3回北部支部ミーティング 18:30 ~ ユニオン事務所	5日(木)	未組織労働者セミナー 18:30 ~ 出版労連会議室
6日(水)	執行委員会 18:30 ~ ユニオン事務所	6日(金)	第4回北部支部ミーティング 18:30 ~ ユニオン事務所
13日(水)	ファーストステップ Step1 18:30 ~ ユニオン事務所	11日(水)	ファーストステップ Step3 18:30 ~ ユニオン事務所



✓ 執行委員紹介

陰の仕掛け人 国貞副委員長

教科書会社である一橋出版に組合を作り、長く教科書共闘を率いた国貞さんは、「つくる会」の教科書採択を阻止した陰の仕掛け人であり、穏やかな風貌からは想像できない強い信念の人である。これまでの波乱万丈の人生は、退職記念の『出会い・たたかい・旅立ち』に詳しいが、そうした豊富な経験が、他人に対しての優しい眼差しや何事に対しても謙虚な姿勢となって現れている、と思う。温泉好きも有名だが、豊富な話題と率直な行動の酒席もまた楽しい、頼りになる副委員長である。(執行委員・俵谷)

お世話になりました 中村書記次長

数年前に私が勤めていた会社で争議があり、中村さんには、その時結成した組合の担当となっていただきました。担当となった理由は、関連会社も含めてコンピュータ関連の仕事をやっているらしいということで、中村さんなら事情に詳しいのではとのことだったようです。

いつもは冷静で温厚な中村さんですが、団体交渉中、会社側のいい加減な発言に中村さんが激怒したことで、会社側の2人が部屋から出ていってしまい、みんなで手分けをして探しにいったこともありました。

また、社内で毎朝配るピラの内容を毎回チェックしていただきました。私たちの担当だけでなく、仕事や他の組合活動でも忙しく、早朝出勤し夜遅く帰宅することも多かったと思いますが、かなりの日数それは続きました。

中村さんは多趣味、多才で、パソコンを自分で組み立てたり、自身のホームページ作成から出版労連のホームページの管理なども。その当時、秘密の習い事をしていて、とうとう何をやってたのか教えてもらえませんでした。現在は、ユニオンでwebの担当その他で活躍されています。

(執行委員・大塚)

今後の日程(つづき)

- 12月13日(金) 未組織労働者セミナー
18:30 ~ 出版労連会議室
- 20日(金) 第5回中部・西部支部ミーティング
18:30 ~ ユニオン事務所
- 1月10日(金) 第5回北部支部ミーティング
18:30 ~ ユニオン事務所
- 24日(金) 第6回中部・西部支部ミーティング
18:30 ~ ユニオン事務所
- 2月7日(金) 第6回北部支部ミーティング
18:30 ~ ユニオン事務所

✓ 私の隠れ家

その2 寿司割烹江戸富士

隠れ家というよりは、場所がわかりにくいので向こうが隠れているといった感じであるが、生魚好きにはオススメのランチスポットである。湯島二丁目の霊雲寺の前から垂直に蔵前通りに向かう道をすすみ、桜木神社を右に見て下る坂の途中(労音の隣)にある「寿司割烹江戸富士」。名前だけだと財布の中身が気になるが、ランチは早く・安く・美味しい。ちなみに、ランチタイムはにぎり・ちらしともに780円、このほか丼ものが豊富で、鰯たたき丼・鯛丼・寿司屋の甘たれ丼・イカタコ丼・ひかり種尽くし丼が各780円、秋季限定秋刀魚盛り丼800円、本マグロ中落ち丼880円、特製ネギトロ丼・生卵入りネギトロ納豆丼が各900円、鉄火丼・海鮮丼・寿司屋のスタミナ丼・親子丼(鮭とイクラ)・北海尽くし丼が980円といった具合である。時間に余裕がある人には3000円からの寿司会席もある。

本郷三丁目交差点から徒歩10分、出版労連本部からも7~8分ほどであるが、秋の風情を愛でながら散歩がてらお出かけになるのはいかが。

夜は夜でそれはそれ、静かに酒を楽しむには絶好の場所である。随分前のことになるが、愛想は悪いが腕は確かな職人肌の親父の包丁さばきを見ながら、カウンターで一人飲んだ時には、何となく自分も大人になったような気がしたものである。蔵元から直接取り寄せた十四代・田酒など、他ではあまり飲めない酒があるのもうれしい。肴には好き嫌いもあるだろうが、ホヤの刺身は絶品。一度は試してもらいたい。10時30分には閉店するので一軒でやめるなら肝臓も安心。夜は大人の店なのでお値段もそれなりだが、値段に見合う満足は請け合いである。

(北部支部・俵谷晋三)

✓ 君知るや銘酒泡盛 - マル田泡盛

前回の金武町の「松藤」に続けて、今回も北部のサキを紹介する。「マル田泡盛」。

「マル田」は円の中に「田」の字を書く、「本場泡盛」である。中央に縦組みされたそのブランド名を稲穂が囲んでいるお馴染みのラベル。ちょっとセンス悪い。しかし、味はいいよ。北部の泡盛のファンになりそう。

この泡盛も甘い。でも前回の「松藤」ほどのくどさはなく、程よい切れ味。口に含むと、まず辛さを感じ、舌がピリリとしびれる(ちょっとだけだけど)。

純度からくるものか、比較的アルコールが強い感じがする(実際は30度で、普通なただけだね)。鼻の粘膜が痛くなるほど。それがすーっと抜けて

ゆく。注射される前に腕に消毒用のアルコールを塗られ、それが気化してすーっとする、あの感じが鼻の粘膜で起こると言えば分かってもらえるだろうか。

その一方で甘みはかなり強い。鼻がすーっとするほどのアルコールと強い甘味。これが融合したとき、常ならざる深みが生じ、飲む者の舌を楽しませる。「マル田泡盛」の深さは、この甘さに包まれた、酸味をさわやかに感じさせるところにある。新酒のツンツン感がなくなった、古酒を味わってみたいという気がした。

「マル田泡盛」は、大宜味村字田嘉里417、合名会社田嘉里酒造所製。購入価格は泡盛館で360ml、380円(+悪税)。(文京泡盛普及協会・桶名傾)

組合用語ってわけわかんない しゅんとう・しゅうねんとう【春闘・秋年闘】

いよいよ出版労連の2002年度秋季・年末闘争(秋年闘)がはじまります。

出版労連ではこれまで職場の従業員の労働条件向上のために、春と秋にすべての単組・分会が統一した日程に合わせて要求(できるかぎりその要求の中味も統一して)を提出し、経営からは統一した日程に合わせて回答をもらい、単産全体として統一した闘いを展開するという「統一闘争」を組んできました。

春(春闘)のメインの要求としては、賃上げ、夏の一時金(ボーナス)、労働条件の向上を掲げ、秋(秋年闘)では、労働組合の権利関係、冬の一時金の要求を掲げてきました。

この方式は、個別単組・分会の労働条件をどうするのか、という観点だけでなく、広く単産全体の中で、その単組・分会の労働条件がどうなっているのかを客観的に把握することにより、全体的に単産全体の労働条件の底上げをはかれるということで大きな成果をあげてきました。

もともと「春闘」という戦術は、戦後の労働運動の中で、様々な単産がそれぞれ個別にそのたたかいを展開してきたことに限界を感じ、1955年に、まず炭労、合化労連、私鉄総連、電算労、紙パ労連の5単産が春に共同して賃上げの要求を中心として提出してたたかいを展開したことから始まり、翌56年には、さらに全国金属、化学同盟、電機労連の3単産がこれに加

わり、やがて日本のほとんどの単産、労働組合が春に一斉に要求を出してたたかうようになって定着してきたものです。この「春闘方式」は、折しも高度経済成長に向かいつつある日本の経済動向とも関わりあって、日本全体の労働者の労働条件の向上に大きく貢献したことはいうまでもありません。

パブルの崩壊後、それぞれの単産・労働組合の足並みがそろわなくなったという実情もあり、最近の10数年は必ずしも期待されるほどの大きな成果はあげにくくなってきていますが、やはり、労働者が個々バラバラにたたかうのではなく、全体として統一してたたかうという観点から見れば、依然として有効な戦術であることは間違いありません。

ただ、ここで一つだけ注意しておくことがあります。それは、労働者のたたかいというものには、何も春と秋だけにあるというものではないということです。私たちの職場は、日常普段に経営からの様々な攻撃にさらされています。そういうものに対する日常的なたたかいが重要です。そうして蓄えた力を春と秋に一気に結集する、そうしてこそ大きな成果が得られるのだと思います。日常の職場活動が全く空洞化しているような活動では、いくら春や秋に統一して要求を提出してたたかってみても大きな成果は挙げられないということを銘記すべきでしょう。

